

# 中村設計新聞

○はじめに



今月の土曜研修は水都大阪に行き、水辺の都市を堪能するべく、桜ノ宮公園から大川に入り中之島を巡航する「水陸両用バス」に乗るプチクルージングを楽しみました。

午後には大阪の水害に関する展示、広報を行っている『津波・高潮センター』に行き、大阪の水災害に関する歴史、課題、対策などを体験、勉強しました。

## スケジュール

- 阪急梅田駅に到着
- 水陸両用バスに乗車
- 中之島散策
- 津波・高潮センター見学
- 解散



中之島フェスティバルタワー



でかいぞー！バス



洪水史の勉強



中之島の新名所！

## 第三十三号

一月十九日(土)晴れ

今月の土曜研修は「水都大阪」で水陸両用バスの乗車体験や津波・高潮センターの見学等を通し、水と都市の環境について学びました。

### ○体験レポート①

「水陸両用バスに乗って」

水陸両用バスに乗るのは今回が初めての体験でした。出発地の大阪新阪急ホテル前に行くと、予想以上に大きいバスが迎えてくれました。



#### LEGEND零TWO号

全長：11.95m  
幅：2.45m  
高さ：3.7m  
製造：日本水陸株式会社



→水上にて記念撮影  
→水面上で寒いけれど爽快です



←「水都大阪」春は桜が綺麗だそうです



車高の高いバスから見る水都大阪の景色は、歩いて見る景色とは一味違い新鮮です。しかし水陸両用バスには窓ガラスがないため、冷たい風に耐えつつも景色を楽しみながら、桜ノ宮公園に到着。公園内のスロープを滑り下り大川へ「スプラッシュイン」！かもめが飛び交う水上から大阪を眺める風流なクルージングを楽しみました。

今まであまり実感がなかったのですが、今回の体験を通して、水と大阪の関わりを体験できました。京都のように「街に川がある」のとは違い、大阪は「川に街がある」のだな、と感じました。

滝根 世斎

### ○津波・高潮センター

#### 大阪の水害対策

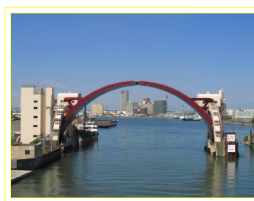
海拔0メートル地帯が多い  
そのため・・・

#### 大阪三大台風の被害

昭和9年	室戸台風
死者2,702名、行方不明者334名	
昭和25年	ジェーン台風
死者398名、行方不明者141名	
昭和36年	第二室戸台風
死者194名、行方不明者8名	

度重なる高潮による被害

水害対策！  
水門の設置など



### ○体験レポート②

「津波・高潮センターで学んだこと」

「水都大阪」というキャッチフレーズをよく耳にするが、実際に大阪と水とがどのような関わり合いがあるかはあまり知らなかった。

今回の見学では、巨大な模型や実物の水門や映像などで、大阪が経験してきた災害の歴史と、その対策がどのように行われているのかを知ることができました。非常に厳しい条件の土地でありながら、大都市として、よくここまで発展してきたと思えました。これが水都大阪と言われる由縁の一つだと感じた見学会でした。

大村 周平



↑今後予想される地震による津波についても学びました



### ○まとめ

アンケートの結果は、「水陸両用バスは楽しかった」との意見が多かったです。又、ガイドさんの説明もユーモアたっぷりで大変楽しさを感ずることが出来ました。

ただ、時期が悪く正直寒かったです。津波・高潮センターでは「大阪の水害の歴史やそれに対する対策を学べた」と、大変良い機会が持てたという意見が多かったです。



「水都大阪」についていろいろなる事を体験し、学べて有意義な一日となりました。

### ○クイズ

今回、私たちが乗った水陸両用バスには窓ガラスがありません。さて、その一番の理由はどれでしょう？



窓が無いから寒いなあ

- ① 四季を楽しむため
- ② 船舶法により制限があるため
- ③ 窓の設置費がとても高かったため
- ④ 道路交通法により設置できないため
- ⑤ バスが水没した際に避難するため

答えは次号の三十四号に掲載するよお

